

令和6年度 第1回

帯広市廃棄物減量等推進審議会 議事録

(概要)

日時 令和6年7月31日(水)

午後3時30分～

会場 くりりんセンター2階 研修室

○ 出席委員(9名)

有働委員、兼子委員、木川委員、佐々木委員、
高田委員、高山委員、中條委員、松原委員、
水上委員

※欠席者7名

○ 事務局 高橋都市環境部参事、岡田環境室長、櫻田清掃担当次長、
桑嶋清掃事業課課長補佐、福田管理係長、中村主任、土田主任、
吉川専門員、西本専門員

○ 傍聴等 報道関係者2名

1 開会

2 副会長挨拶

3 議事

- ・帯広市廃棄物の処理及び清掃に関する規則第3条第2項により会長が議長となるが、会長不在のため第3項に基づき、議長の代理を副会長が務めた。

(1) 協議事項

ア 令和5年度帯広市一般廃棄物処理実施計画に基づく取組の評価について

- ・令和5年度帯広市一般廃棄物処理実施計画に基づく取組の評価について、事務局より説明。

○意見・質疑

副会長)

事務局から令和5年度の取組の評価について説明があった。最終的な目標値というのは一般廃棄物処理基本計画で令和11年度までに、1つ目の1人1日あたりのごみの排出量を800gにするという目標に対して、昨年度の実績は877gなので、右肩下がりに推移しており順調かと思う。2つ目の1人1日あたりの家庭ごみの排出量は350gが目標だが、昨年度は444gであり順調には下がっていないかと思う。3つ目のリサイクル率については令和11年度で30%が目標で右肩上がりにならないといけませんが、昨年度は24.2%と少し下がっているということで、リサイクル率を改めて上げていかなければならない。4つ目の最終処分量も5,890tという目標に対して昨年度は7,581tで、令和4年度よりも下がらないといけないものが増えてしまっており最終的な目標については厳しい状況というのが評価かと思う。

最初に見た基本方針の取り組む施策の中で、災害廃棄物の適切処理の手順書が作成には至らなかったということで一部出来なかったということではあるが、令和11年度の目標値に対して最終的には順調なものもあるが、1人1日あたりの家庭ごみの排出量とリサイクル率、最終処分量はうまくいっていないという評価かと思う。

皆さんからご質問、ご意見があればお願いしたいが、まず私から。

環境にやさしいライフスタイルの促進の項目で、フードバンクやフードドライブ、フリーマーケットの取組の紹介とあるが、フードドライブとはどのような取組か。

事務局)

フードドライブは、スーパーマーケットを拠点に、ご家庭で余っていたり、賞味期限までに食べられない食べ物を集めてこども食堂に寄付するなどの取組のことで、その取組をホームページで周知したということ。

副会長)

確かに様々なスーパーマーケットに集まった食材をこども食堂に提供するというのは耳にしたことがある。

皆さんからも質問を受けたいが、これから各事業や取組を進めるにあたって、こういったこともやってはどうかというお話があればお願いしたいがどうか。

委員)

資源集団回収について、令和元年度から令和5年度までで団体数が減っているが、地域力が低下して町内会が解散していることも要因なのか。

副会長)

町内会の数が減っているということもあるが、町内会の加入者の高齢化もあるのかと思う。

委員)

私の町内会では、町内会や老人会の資源集団回収に出せる資源は市のSの日には出していない。実施団体数の数字が減っているから、町内会も解散していると聞いているので減っているのかと思った。

事務局)

参加団体が令和元年度の727団体から令和5年度には705団体に減っている。この中の多くを占めているのは町内会だが、解散はしていなくても資源集団回収に割く労力が取れなくて、資源集団回収をやめるところが増えてきているというのが一つの要因である。加えて、町内会ではない団体、試しにやってみよ

うと登録して、実際にやった結果、大変だったのでやめてしまう団体もある。

行政の思いとしてはSの日ではなく、資源集団回収で集めたいが、新型コロナウイルスの流行時に、資源集団回収に出すことは出すが、出されたものを町内会で扱うのが難しく、Sの日に回ってきた時期もあった。新型コロナウイルスが5類に移行し、元に戻るのかと考えていたが、令和5年度の実績では、資源集団回収もSの日も減っている状況。新聞や雑誌などの排出量そのものが減ってきているということもあるが、町内会加入率の低下などを背景に参加者が減少し、回収量も減少していると捉えている。

委 員)

資源集団回収の方が分別をしっかりとやって出している。先ほど見せてもらったリサイクルプラザでは、適切に分別されていないという感があった。適切に出せば分別する手間も省かれるのでいいと思う。

副 会 長)

資源集団回収は大事。Sの日の資源だけがリサイクルプラザに運ばれ、資源集団回収の資源は別のルートでリサイクルされているということだが、ごみの排出量としては全部足した量が結果として市民が出したごみの量となるので、ごみ全体を減らすことがまず大事だが、リサイクルすることも大事なので、資源集団回収であれば、Sの日よりも行政による手間をかけずに資源化できていると思う。

また、資源集団回収の手間を参加団体への奨励金というかたちで出している。回収量は令和元年度では 6,374 t だったのが、令和5年度では 4,749 t なので、約 1,600 t 減っているのだからそれだけ担い手や団体が減っているかと思う。大事な取組なので、是非、今後も市民向けにPRし、継続して取り組んでほしい。

委 員)

私たちの団体も資源集団回収を実施しているが、先日、回収業者からコストがかかるため戸別の収集は止めさせてほしいと言われた。それは、受け入れないといけないことなのか。

事 務 局)

資源集団回収における回収業者は何社かあるが、企業としての体力に差がある。回収業者による資源の買取というかたちになっているが、買取金額の変動

があり、回収業者が集めた資源が高く売れる時代であればそこで賄える部分があるが、相場が低くなれば厳しい事情になると思われる。市から回収業者に何が何でもこのようにやってくださいとは言えないので、回収業者の動ける範囲で動いてくださいということになる。

副 会 長)

市から回収業者に協力金を 1,849 万円支給し、資源集団回収への参加団体には奨励金を 1,994 万円支給したとの報告だった。回収業者がこの取組を進めるにあたり、資源の価格変動、人材の確保、人件費の問題等の様々な要素もあるかと思うが、回収業者がやれる範囲でお願いするということだろう。

委 員)

サポート収集事業について、冬場は特に高齢者の方が助かっているという声を聞いているので、経費がかかるとは思うが、今後も続けてほしい。

副 会 長)

大事な取組だから是非続けてほしいというお話かと思う。利用者も増えているので是非今後ともお願いしたい。

いろいろとご意見をいただいたので、市には参考にして取り組んでほしい。

(2) その他

○意見・質疑

委 員)

ごみに割く予算の割合は何%なのか。

清掃費にかけられるお金は横ばいなのか。割合として増えているのか、減っているのかそういった情報はるか。

副 会 長)

先ほどの報告の中でも効率的な収集運搬体制の構築の項目で報告があった一部には、プラスチック製容器包装の収集を民間に更に拡大する体制の入札を行ったというお話と、くりりんセンターの後継の新中間処理施設についてお金を

使っているということだった。ごみ収集している時には市民が購入する指定ごみ袋から市が得る収入もあるので、そのあたりの関係も説明してほしい。

事務局)

全体的な概略だと、歳入は指定ごみ袋や、し尿の汲み取り料がある。例えば指定ごみ袋の場合は、収集運搬にかかる経費を市民負担していただくということで10あたり3円という金額で設定している。処分にかかる費用は、そこで賄うことができない経費として税金が充てられている。特に大きい金額は処分にかかる経費で、くりりんセンターを運営している十勝圏複合事務組合に分担金というかたちでお金を払っているが、その金額はあまり動きがない。その他、令和6年度からプラスチック製容器包装の収集車を4台委託するようにしたことにより経費が少なくなっている部分がある。

将来は新中間処理施設の整備費用として、市が負担する金額は昨年度より大きくなる予定なので、その分は今後増えると思う。

新中間処理施設の整備は十勝圏複合事務組合の取組であるが、どういう設備をつけて運営していくかということについては、経費が膨らみすぎないようにある程度コントロールしながらやっていると思われる。

委員)

歳入は市としては同じだと思うが、ごみのことをやりたいのであれば、ごみの予算を獲得しなければならないとっていて、そのためにここで何か議会に届くような話にならないといけないのではないかとと思っている。

副会長)

ここでの議論が清掃行政を進める上で、私どもの意見が議会に届くような。

委員)

意見が通るのは様々な事情を乗り越えて、合意が図られた時だけだと思う。

副会長)

これから様々な施設を整備することになるのでその時点で検討されると思うが、市の考えに対して、私たちも応援するような立場で意見を出せば市も取組を進めやすいと思う。まだ、その機会ではないかもしれないが、ゆくゆくはそう

なるのが望ましい。

委 員)

私のうろ覚えだが、歳入が約 1,100 億円、くりりんセンターの建て替えや運営・維持管理の入札額が 480 億円だと思うが、莫大なお金である。重要性が高い事案と思っており、より本質的に有意義な議論ができればよいと思う。

副 会 長)

今、委員からいただいたようなお話は次の審議会の場面にうまく活用してほしい。

これまでのお話を整理すると、ごみの収集運搬に対しての経費は有料の指定ごみ袋で賄っている。それ以上に処分する経費としての十勝圏複合事務組合への分担金の金額の方が大きいというお話だった。くりりんセンターの分担金については長年にわたってあまり変わらないというお話だった。そして、これから先はまた経費がかかっていくのでまた様々な議論の中でということ。

事 務 局)

あくまでも新中間処理施設の整備に関しては、十勝圏複合事務組合の事業ではあるが、市の予算の概略は先ほど説明したとおり。

委 員)

受益者負担の範囲ではなくて、市民税などのお金等の分配がそういうところに充てられるということはわかった。

事 務 局)

新中間処理施設は、整備に三百数十億円必要になるが、国からの交付金のほか、組合で積み立てていた基金を取り崩した各市町村への分配金や市債を活用することになるので、全てが毎年度からの税金から賄われるわけではないということをご承知おき願いたい。

委 員)

了解した。

- ・ 今後の予定と議事録の公開について、事務局より説明。

閉会